

施設整備の基本的な考え方

- 県庁の災害対策機能の拠点となる事業継続性に配慮した庁舎
- 愛媛県の DX 推進に向けた官民共創と新しい働き方を推進する庁舎
- 省エネルギーと木材活用による環境に配慮した庁舎
- 松山城に隣接する立地や既存県庁施設との調和や景観に配慮した庁舎
- 機能的で全ての人が使いやすいユニバーサルデザイン庁舎

敷地概要	
地名	愛媛県松山市一番町四丁目 4 番地 2
敷地面積	25,305.67 m ²
用途地域	商業地域
建蔽率	80%
容積率	600%
周辺道路	南側 国道 11 号線 全体幅員 30m
防火地域の指定	防火地域

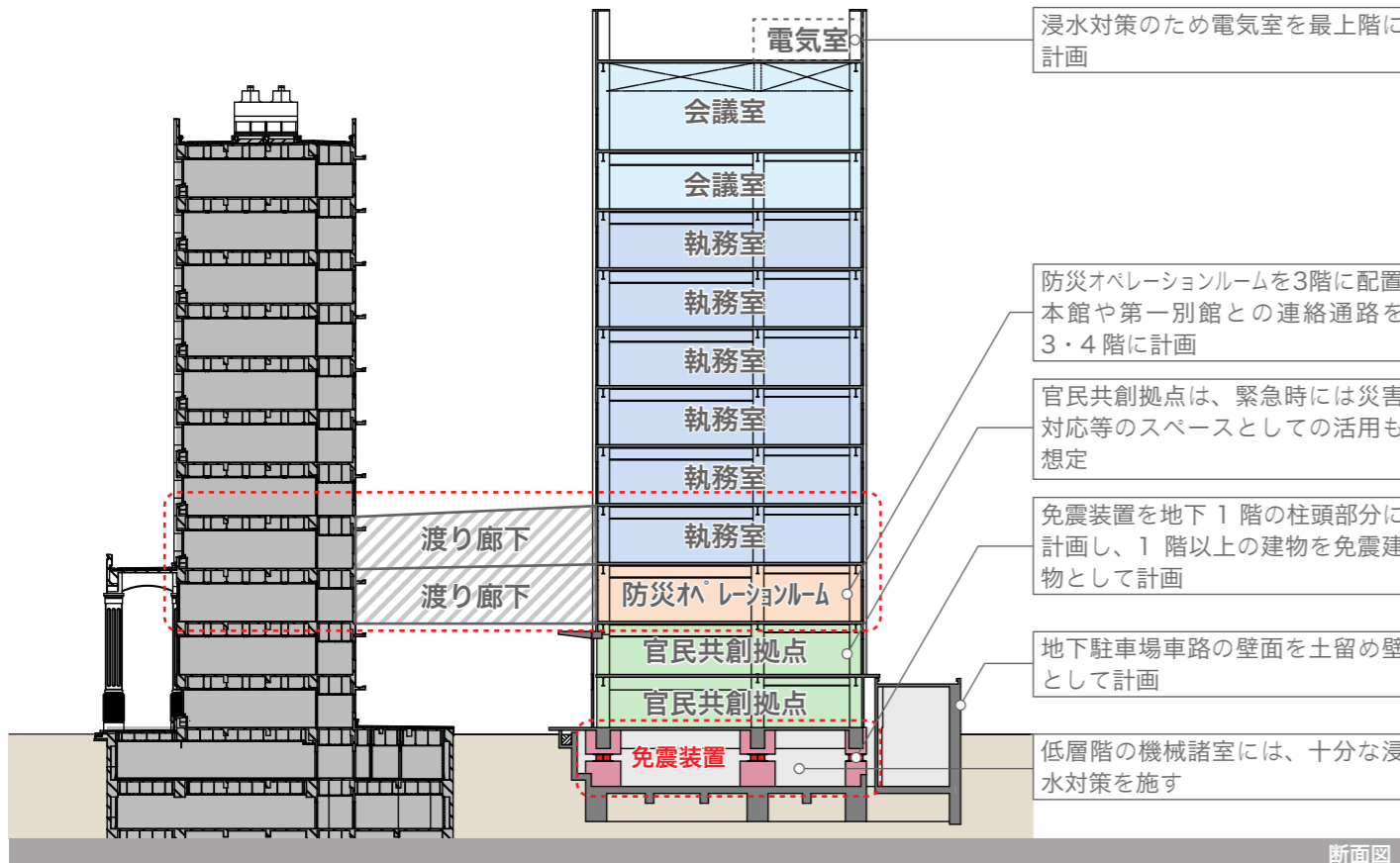
建物概要	
名称	県庁第二別館
構造	S 造 (地下 1 階柱頭免震)
階数	地上 11 階 + 機械フロア / 地下 1 階
最高高さ	約 51.5m
延べ面積	約 14,500 m ²
(耐震安全性の分類)	
構造体	I 類
建築非構造部材	A 類
建築設備	甲類

県庁の災害対策機能の拠点となる事業継続性に配慮した庁舎

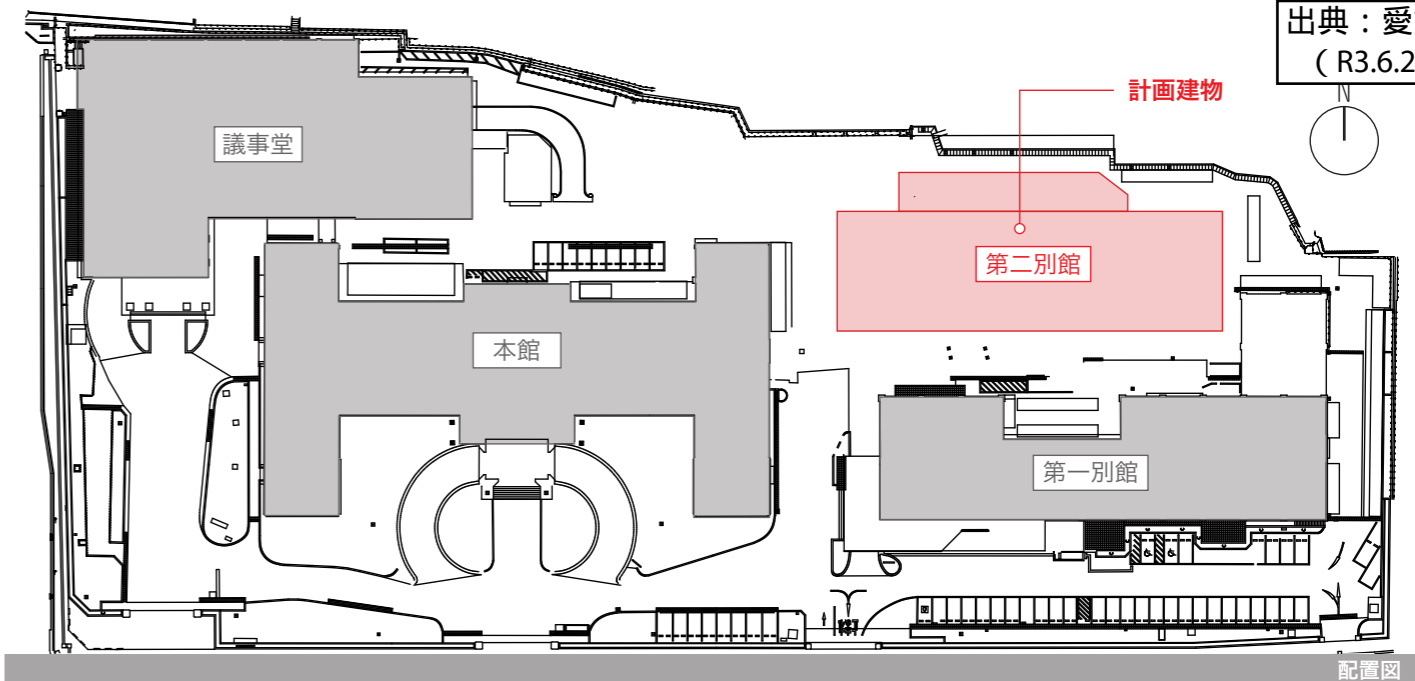
■ 災害に対する考え方

- ・ 「防災オペレーションルーム」を 3 階に設置し、第一別館 3 階の防災フロアと連絡通路により回廊型に接続し、第一・新第二別館の 3 階フロア全体の一体的運用により防災機能の強化を図ります。
- ・ 本計画地は最大で 2m の浸水被害が予測されているため、災害対策機能の拠点となる事業継続性に配慮した庁舎として計画します。

- ・ 電気室を最上階に設置します。
- ・ 免震装置を地下 1 階の柱頭部分に計画し、1 階以上の建物を免震建物として計画します。
- ・ 本建物は崖地に隣接して計画されており、敷地が土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域の指定地内であるため、土砂による荷重を考慮して設計を行います。



断面図



配置図

愛媛県の DX 推進に向けた官民共創と新しい働き方を推進する庁舎

■ 官民共創・新しい働き方を推進する庁舎の基本方針

- ・ ポストコロナを見据え、オンライン会議を始めとする様々な業務の進め方に対応できるエリアを低層階に整備し、産学官が共同で利用する「官民共創拠点」として活用することにより、全国に先駆けた DX の推進や地域経済の活性化に取り組みます。
- ・ 1 階は「交流・共創・セミナーゾーン」、「Co-Work ゾーン」とし、コワーキングスペース等、官民共創のスペースとします。
- ・ 2 階は「集中ゾーン」、「DX プロジェクトゾーン」とし、集中して作業が行えるスペースや、Web 発信のスタジオ等を計画します。

■ 2025 年に向けたデジタル環境の検討

デジタルインフラ構築	既存インフラとの連携 リモートアクセス手段/Wi-Fi
デジタルツール導入	コミュニケーションツール、Web会議、プロジェクト管理サービス、課題トラッキングシステム等
入退館認証	ICカードやQRコードを使用した認証(職員用、民間用、一時利用等)
会議室システム	会議室予約システムの導入 会議室ドアに予約スケジュールの表示
施設管理(BEMS)	ビル内エネルギー制御 センシングによるビル内情報の収集・分析

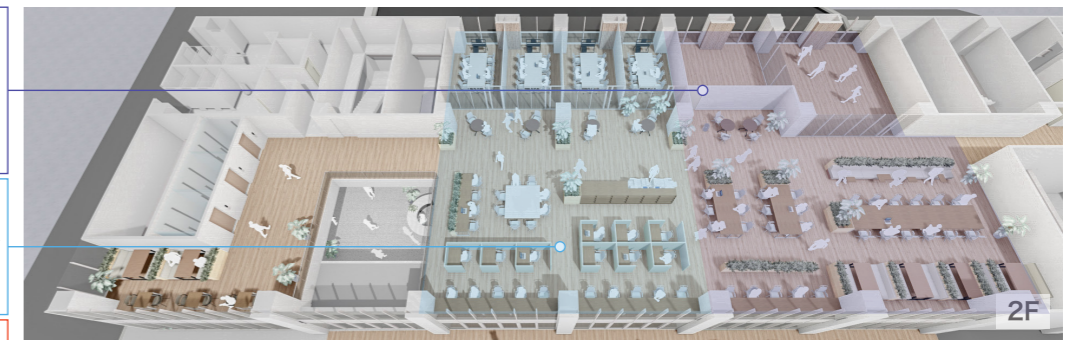
DX プロジェクトゾーン
ウェビナー会場や会見、有識者の発表の場としてのスタジオの他、グループディスカッションなどに適した空間

集中ゾーン
会議室のほか集中ブースを多数計画し、集中して作業や打合せができるスペースとして計画

Co-Work ゾーン
ソーシャルエリアとはゲートによりセキュリティを分け、事前登録者が利用できるコワーキングスペースとして計画

交流・共創・セミナーゾーン (ソーシャルエリア)
来庁者が自由に出入りすることができるオープンな空間
官民が自由に意見交換できる場

オープンテラス
エントランス付近はオープンなテラスとし、ソーシャルエリアと自由に行き来できる開放的なテラスとして計画



1 階・2 階 官民共創拠点 イメージパース

省エネルギーと木材活用による環境に配慮した庁舎

■省エネルギーな庁舎

- ・建物を高断熱化し外皮性能を高めることに加え、電気、機械設備計画において高効率な省エネルギー技術を採用します。
- ・基準一次エネルギー消費量から 50% 以上削減した CO₂ 排出量の少ない「ZEB (ZEB Ready) 庁舎」を目指します。

■環境配慮型庁舎

- ・屋上に太陽光パネルを設置し、庁舎で利用される電気エネルギーを補い、環境に配慮した庁舎とします。
- ・CLT (Cross Laminated Timber : 直交集成板) と呼ばれる構造用の木材を耐震壁として各階の南北面を中心に使用するほか、内装に木を採用し、温かみのある庁舎とします。
- ・雨水を利用する雨水貯留槽を設け、水資源の有効利用を図ります。



松山城に隣接する立地や既存県庁施設との調和や景観に配慮した庁舎

■外観デザインの基本方針

- ・既存県庁施設との調和を考慮した意匠とし、永年県民に愛される庁舎とします。

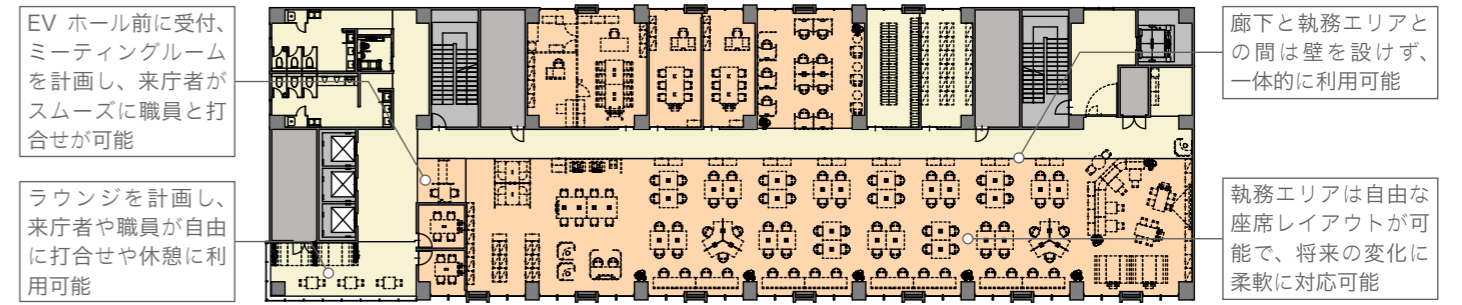
機能的で全ての人使いやすいユニバーサルデザイン庁舎

■ユニバーサルデザイン庁舎の基本方針

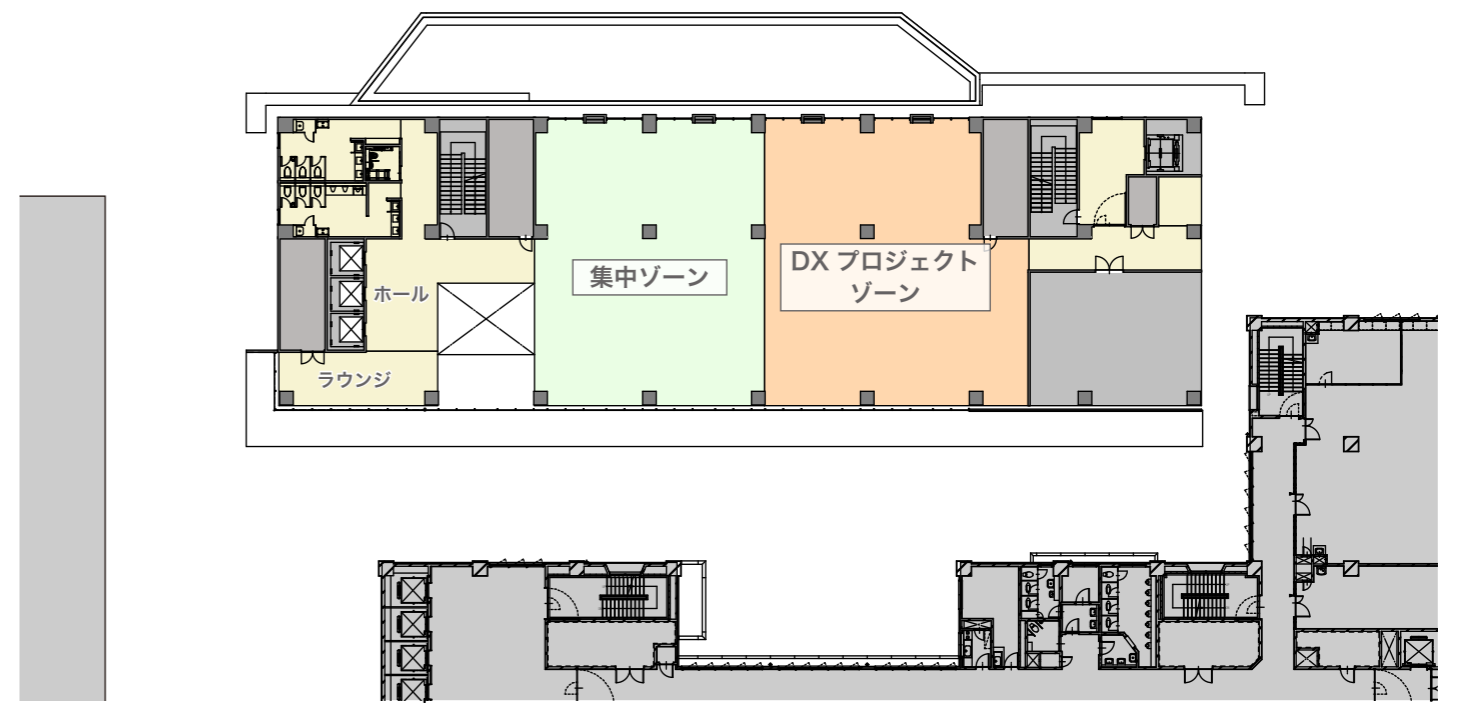
- ・障がいのある方や高齢者、妊婦、乳幼児を連れた方など、誰もが利用しやすく、安全で快適に過ごすことができるユニバーサルデザイン庁舎とします。

■工事スケジュール (予定)

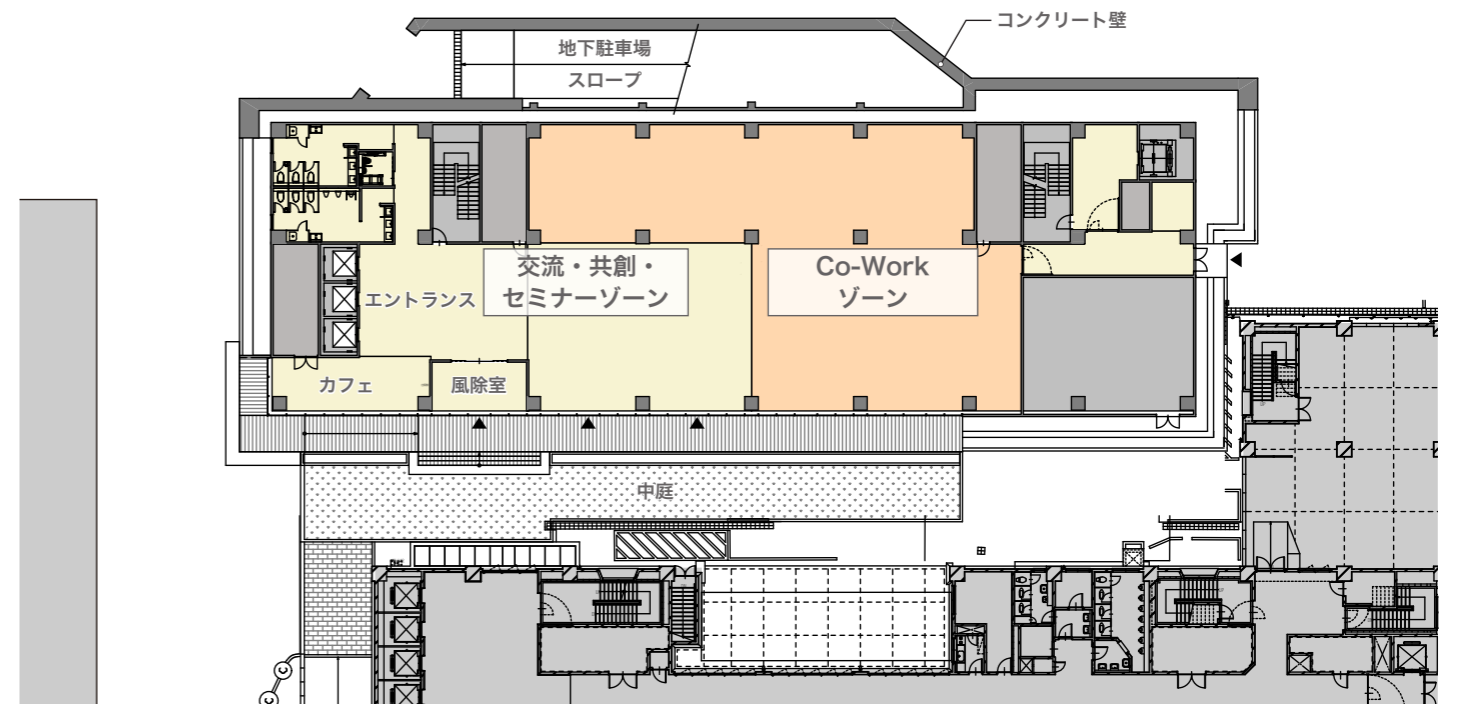
	令和 4 年 (2022 年)				令和 5 年 (2023 年)				令和 6 年 (2024 年)				令和 7 年 (2025 年)				
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	
解体工事					← 約 14 カ月間 →												
新築工事									← 約 26 カ月間 →								



基準階平面図 (S=1:500)



2 階平面図 (S=1:500)



1 階平面図 (S=1:500)